木 下　明 教授 近影

木下先生の退官にあたり

木下教授が定年退官される。社会科学系、特に法律分野にとっての大損失である。先生は筑波大学に奉職されてから一貫して、小まめに、また誠実に学内行政に献身され、また教育に情熱を燃やされて来られた。学内行政についていえば、特に法律教官にとっては重責となる学生補導担当職を十年余引き受けられ、加うるに数年来厚生補導審議会の副会長として活躍されて来られた。それと共に、学外でも国大協第三常置委員会教員委員として約五年間勤められて来た。さらに昭和五四年度学園祭問題を契機として発生した学生懲戒処分に関する行政訴訟では、学長の指定代理人として多大のエネルギーと時間を消費し、心身ともに疲労困憊されたのであった。いわば、先生は大学行政の中で最も重要な、しかし脚光を浴びることのない、どちらかというと皆が避けて通りたがる分野を、黙々としっかり支えてこられた人といえよう。本当に御苦労様でしたと深く御礼申し上げる次第です。

次に私が垣間見た先生の御人柄の一端を述べさせていただきます。先生の会議のメモの詳細なことは驚くばかりで、小さな綺麗な字で会議内容を正確に整理されており、ズボラな私などは先生に御尋ねすることによりどんなに助けられたかわからない。すっかり先生におんぶにだっこだった私はこれからどうしてよいか本当に困っているところです。

教育面で私はまた先生の真険さに驚かされた。ある時、先生の研究室にノックして入った時、先生は窓に向って椅子に坐っておられたが、その机の上に、これまた几帳面な字でビッシリと書かれたノートが置いてあった。私は講義

用ノートかと思って、「講義内容」ですかと質問して、その御返事に吃驚した。「いや、講義をした後の内容を整理しているのです」と。講義前に予めその内容を準備してメモをとっておくことは、どの教官でも行なうことであろう。しかし講義後にもその講義内容を整理するというこの一事で、先生の教育への研究への、また人生全てに対する厳しさと、先生の全人格を理解できる感じがしたのである。

また、先生はいつもニコニコ微笑を浮かべ、非常におとなしく、人と争うことを好まなかった。しかし、学系・学類会議等においては日和見的でなく、少数意見であっても毅然として自己の意見を一貫して主張される芯の強さを持たれていた。先生の静寂の中には正に強靱な意志が秘められていることを知らされ、その場その場で自己の立場を豹変する者達にとって恐怖の存在でもあったと思われる。

先生は酒を嗜まれなかったが、学系の年度末のコンパにおいて、母校である一高の寮歌を歌ったとき、両拳を固く握りしめて、振り挙げ振り下ろし、青春の情熱そのものになりきって謳歌されていたのを横から拝見して、白線帽をかぶっていた先生の一高生時代を想像させていただくと共に、先生は未だ未だ若いなあ、定年退官にはもったいないなと思わされたのである。

これからの十年こそが筑波大学の正念場と思われる時だけに、未だ未だ大学に残って我々を導いていただけたらと残念でたまらないが、制度とあらば如何ともし難い。

どうか、木下先生、その若さで、今後も益々御健康で御活躍下さい。特に大学行政のための消費されたエネルギーを、今後思う存分身分法の研究に注いでいただきたいと切望する次第です。

永い間本当に御苦労様でした。

法律教官代表　荒　秀

略歴

大正一〇年　七月一五日　朝鮮京畿道仁川府に生まる

学歴

昭和一四年　三月　神奈川県立川崎中学校卒業
同　一七年　九月　第一高等学校文科甲類卒業
同　一七年一〇月　東京帝国大学法学部政治学科入学
同　一八年一二月　学徒入営により兵役に服す。この間東大休学
同　二〇年　八月　復員により東大に復学
同　二二年　三月　東京帝国大学法学部政治学科卒業

職歴

昭和二二年　四月　東京都立第八中学校授業嘱託
同　二二年　九月　東京都立第八中学校教諭
同　二三年　八月　東京都立第八新制高等学校教諭
同　二四年　七月　茨城大学講師（文理学部）
同　二八年　七月　茨城大学助教授（文理学部）
同　四一年　四月　茨城大学教授（文理学部）
同　四二年　六月　茨城大学教授（人文学部）
同　四四年　四月　筑波大学助教授（社会科学系）
同　五〇年　五月　筑波大学教授（社会科学系）、現在に至る。

兼業歴

昭和二八年　一月　水戸家庭裁判所家事調停委員、昭和四九年一〇月から家事調停委員（水戸家裁所属）として現在に至る。
同　三二年　四月　茨城県建設工事紛争審査会委員（昭和四一年副会長、同四三年会長、同五二年一月退任）
同　三六年　二月　茨城県地方労働委員会公益委員（昭和四〇年二月退任）
同　三八年　七月　茨城県収用委員会委員（昭和四〇年副会長、同四三年から四八年まで会長、同五〇年七月退任）
同　三九年　一月　水戸地方裁判所民事一般・宅地建物・農事調停委員、昭和四九年一〇月から民事調停委員（水戸地裁・簡裁所属）として現在に至る。
同　四三年　四月　茨城県公務災害補償等認定委員会委員（昭和五八年二月退任）
同　四四年　四月　茨城県町村非常勤職員公務災害補償組合（昭和四八年一二月から茨城県市町村職員公務災害補償組合、同五〇年七月から茨城県市町村総合事務組合）公務災害補償等認定委員会委

員として現在に至る。

表彰

昭和三五年一一月	水戸地方・家庭裁判所長表彰（調停功労）	
同　四一年　九月	東京高等裁判所長官表彰（同右）	
同　四九年　七月	建設大臣表彰（収用行政表彰）	
同　五六年一〇月	最高裁判所長官表彰（調停功労）	

業績

一　民法関係

孝道と法律――刑法第二〇〇条ならびに民法第七三〇条に対する法哲学的・立法論的考察――	茨城大学文理学部紀要（人文科学）第二号	昭二七・二
民法における公共の福祉の原則、ほか三項目	中川善之助編・民法上巻（法律学演習講座）青林書院	昭二九・二
近代私法における指導原則の修正過程	茨城大学文理学部紀要（社会科学）第四号	昭二九・三
婚族関係、ほか六項目	中川善之助編・民法下巻（法律学演習講座）青林書院	昭二九・八
相続	尾高朝雄ほか二氏編・法哲学講座第八巻（現代実定法の基本問題Ⅲ）有斐閣	昭三一・一二
親子思想の諸問題	中川善之助ほか五氏編・親子（講座・家族問題と家族法第四巻）酒井書店	昭三三・四
親子の扶養	中川善之助ほか五氏編・扶養（講座・家族問題と家族法第五巻）酒井書店	昭三三・四
代襲相続の法理	茨城大学文理学部紀要（社会科学）第九号	昭三四・二
代襲相続の法理	私法（日本私法学会機関誌）第二一号	昭三四・一〇
嫡出でない子の地位	家族法大系第四巻親子、有斐閣	昭三五・三
内縁の子の嫡出化	茨城大学政経学会雑誌第八号	昭三五・一二
禁治産者が本心に復し、後見人の同意を得てなした行為の効力	中川善之助編・民法上巻（実例法学全集）青林書院	昭三六・九
婚姻が取り消された場合と直系姻族間の婚姻禁止、ほか七項目	中川善之助編・民法下巻（実例法学全集）青林書院	昭三八・五
イギリス法における非嫡出子	茨城大学文理学部紀要（社会科学）第一五号	昭三九・一二
千葉県船橋市豊富地区（調査報告）	川島武宜編著・農家相続と農地、東大出版会	昭四〇・三
相続放棄申述の方式	家族法判例百選	昭四二・二

嫡出子	中川善之助＝青山道夫編・実用法律事典第二巻親子、第一法規出版	昭四四・二
婚姻解消後三〇〇日以内に出生した子が嫡出の推定を受けないとされた事例（最新判批）	判例評論第一二九号（判例時報第五六九号添付、判例時報社（日本評論社）	昭四四・一一
「嫡」出子の追放	ジュリスト第四五一号、有斐閣	昭四五・六
祭祀相続	判例時報編集部編・民法基本問題一五〇講Ⅲ親族・相続、一粒社	昭四六・一
民法第七七九条～第七八六条（任意認知）注釈	中川善之助編・注釈民法第二巻のⅠ、有斐閣	昭四六・四
民法第七七九条～第七八九条（婚外子）注釈	中川善之助＝島津一郎編・民法Ⅲ親族法・相続法（基本法コンメンタール）日本評論社	昭四六・五
法定単純承認	田中実＝中川淳編・判例演習講座・民法Ⅱ（親族・相続）世界思想社	昭四七・七
実子(二)——非嫡出子	中川善之助編・判例による民法入門（別冊ジュリスト）有斐閣	昭四七・一〇
相続放棄申述の方式〈補訂稿〉	家族法判例百選（新版）（別冊ジュリスト）有斐閣	昭四八・二
親権	中川善之助監修・現代法学事典第三巻、日本評論社	昭四八・九
子の名前は誰がどのようにして定めるか、ほか三項目	中川善之助監修・親族相続事故百科、金融財政事情研究会	昭四九・九
賃借権（借家権）と相続	法学教室〈第二期〉第七号、（別冊ジュリスト）有斐閣	昭五〇・一
実子（一九項目全部）	五十嵐清ほか三氏編・民法学の基礎、有斐閣	昭五〇・一〇
遺言執行者の権限	有地亨ほか六氏編・民法学第七巻（有斐閣双書）有斐閣	昭五一・三
夫婦と氏	高梨公之教授還暦祝賀論文集・婚姻法の研究下巻、有斐閣	昭五一・八
人間の誕生と法律	阿南成一編・法学入門、青林書院新社	昭五二・一
民法第七七九条～第七八	中川善之助＝島津	昭五三・二

九条（婚外子）注釈八補訂稿	一郎編・新版親族・相続（基本法コンメンタール）日本評論社	昭五三・四
民法第八二〇条～第八二五条（親権の効力）判例コンメンタール	島津一郎編・判例コンメンタール第六巻民法Ⅳ親族、三省堂	昭五四・一二
認知の訴えにおける父子関係の証明	中川善之助先生追悼・現代家族法大系第三巻、有斐閣	昭五五・二
認知の訴えの性質	家族法判例百選（第三版）（別冊ジュリスト）有斐閣	昭五七・三
一般条項、ほか七二項目および人名索引	遠藤浩ほか五氏編・民事法小辞典、一粒社	昭五七・一二
日本民法の沿革、ほか一一項目	中川善之助ほか二氏編・体系民法事典、青林書院新社	近刊
婚姻費用の分担、ほか二項目	岩間昭道ほか八氏編・法令解釈事典、ぎょうせい	

二　民法以外の諸法関係

法と法規	茨城大学政経学会雑誌第一号	昭三〇・六
日本原子力研究所における労使関係	労使関係調査会編・地方産業における労使関係の実態(3)、労使関係調査会	昭三八・八
労働組合の資格審査と不当労働行為制度と関係について――労組法二条・五条と七条との関係――	茨城大学文理学部紀要（社会科学）第一四号	昭三八・一二
金銭補償の原則と替地補償との関係	補償研究第五巻第五〇号、補償研究会	昭四二・六
所有名義人が不存在である土地の用地取得について	（全国土地収用研究での講演速記）全国収用委員会連絡協議会	昭四五・八
収用地の裁決価格の算定基準について	月刊用地第三巻第一〇号、東京出版	昭四五・一〇
公共用地の取得に際しての正当な権利者の認定について	全国用地第二号、用地対策連絡会全国協議会	昭四六・一〇
法と道徳	田中実＝川添利幸編・ワークブック法学・憲法（有斐閣選書）有斐閣	昭五三・三